

平成 28 年 3 月 31 日
NDC-LD 共同研究作業グループ

NDC-LD で試行する補助表合成記号の範囲

I. NDC9 版の場合 (2015/07/23)

1 基本的な考え方

- Linked Data としての NDC-LD のあり方を検証する一助として、範囲を限定して補助表を用いて合成した記号（以下、合成記号）をリソースとして生成する（当面の対象は NDC9 版）
- 一般補助表の形式区分（共通細目）および海洋区分、固有補助表による合成は行わない
*形式区分は原理的にはすべての記号と合成できるため、範囲の限定が困難。海洋区分は合成の対象は非常に限定的（3 か所のみ）だがあまり使われない。固有補助表は実際の使われ方がかなり限定的
- 一般補助表の地理区分、言語区分、言語共通区分および文学共通区分については、対象としてリストアップする分類記号のみに対して合成を行う
- 地理区分については、合成に用いる補助表の記号をある程度絞り込む
- 検証の各段階により、合成の範囲は随時見直す

2 それぞれの補助表の扱い

(1) 地理区分

① 考え方

地理区分はきりががないため、検証のための例示と割り切り、もっとも一般的な例と、関連索引の索引語や NDLSH に対応する合成記号が多く存在する分類記号を選択する（全 4 例）

② 対象とする分類記号

- 29（各国・各地域の地理・地誌・紀行）
*ただし 291~299 の要目レベルは細目表にも存在
- 302（政治・経済・社会・文化事情）
- 382（風俗史・民俗誌・民族誌）
*382.1/7 は範囲項目として細目表にあり。次の 469.9 とともに NDLSH に多くの地域の民族名・人種名が収録されているために選択
- 469.9（人種誌）

③ 補助表の記号の範囲（地理区分リスト参照）

- 日本は、地方名（例：東北地方）および都道府県名とする。北海道の支庁や東京都の細分等は除外
- 日本以外は、広域な地域名、独立国を基本とする（歴史的な扱いによる例外あり）。州名や国の領土である島名等は除外

(2) 言語区分

① 考え方

9類の「その他の〇〇文学」として総称されている分類記号のみとする。これらの分類記号にも、相関索引の索引語やNDLSHに対応する合成記号が多く存在する。ただし、それぞれの分類記号で用いられる言語区分の記号はそれぞれ限定的である

② 対象とする分類記号

- ・ 929 (その他の東洋文学)
* 言語区分の-291~2999の29を省略して合成
- ・ 949 (その他のゲルマン文学)
* 言語区分の-491~4999の49を省略して合成
- ・ 979 (その他のロマンス文学)
* 言語区分の-791~799の79を省略して合成
- ・ 989 (その他のスラヴ文学)
* 言語区分の-891~899の89を省略して合成
- ・ 993 (その他のヨーロッパ文学)
* 言語区分の-931~938の93を省略して合成
- ・ 994 (アフリカ文学)
* 言語区分の-942~948の94を省略して合成

③ 補助表の記号の範囲 (言語区分リスト参照)

上記②で示した言語区分の範囲とし、その範囲内の記号はすべて合成に使用する

(3) 言語共通区分

① 考え方

基本的に、単独の言語が分類項目である場合はすべて言語共通区分ができるが、判断に煩雑な部分があり、合成は要目レベルのみに限定する (小数点以下まで展開されている記号は合成しない)。ただし朝鮮語は例外とする。なお、細目表には合成された記号が掲載されていないが、要目表には掲載されている場合があり、注意を要する

② 対象とする分類記号

829.1、84、85、859、86、869、87、88、891、892

(4) 文学共通区分

① 考え方

基本的に、言語区分と同様、単独の言語の文学が分類項目である場合はすべて文学共通区分ができるが、判断に煩雑な部分があり、合成は要目レベルのみに限定する (小数点以下まで展開されている記号は合成しない)。なお、細目表には合成された記号が掲載されていないが、要目表には掲載されている場合があり、注意を要する

② 対象とする分類記号

969、97、98、991、992

II. NDC8 版の場合 (2015/11/30)

1 NDC8 の補助表について

- NDC8 版の補助表の扱いは次の点で 9 版と異なっている。
独立した地理区分および言語区分の補助表がなく、細目表を参照して記号を合成することになっている (MRDF8 の補助表データは言語共通区分と文学共通区分のみ)
- 補助表だけでなく、全体的に縮約項目、不均衡項目のタグの指示が甘く、明らかに間違いと思われるものもある。さらに 8 版冊子体のインデントと MRDF のタグが異なっている場合が多い。
- そのため次のような扱いとする、

2 それぞれの補助表の扱い

(5) 地理区分

① 考え方

地理区分については、9 版で抽出した地理区分データと、MRDF8 の 2 類のデータを対比させ、9 版データをもとに 8 版地理区分データを生成する。その際、縮約・不均衡項目のタグについても、8 版の 2 類に合わせて修正する (明らかに間違いであっても)。

(例)

MRDF9 では、山陰地方 (217.1) を 0010 の通常のカテゴリ記号、鳥取県 (217.2) を 0810 の縮約記号の扱いにしているが、MRDF8 では鳥取県にも 010 (MRDF8 では種類コードが 3 桁) を与えている。鳥取県の直近上位は MRDF9 では山陰地方 (217.1)、MRDF8 では中国地方 (217) となる。

② 対象とする分類記号

- 29 (各国・各地域の地理・地誌・紀行)
*ただし 291~299 の要目レベルは細目表にも存在
- 302 (政治・経済・社会・文化事情)
- 382 (風俗史・民俗誌・民族誌)
- 469.9 (人種誌)

(6) 言語区分

① 考え方

9 版では、9 類の「その他の〇〇文学」として総称されている分類記号にのみ言語区分の合成を行った。しかし、8 版では「その他の〇〇文学」の下位の主な言語の文学に対して合成した記号が展開されている。そのため、記号合成を行うと細目表のカテゴリ項目データとバッティングしてしまう場合があるので、言語区分による記号の合成は行わない (一応、9 版に対応した 8 版の言語区分のリストは作成)。

(例)

01229400A989	010 その他のスラヴ文学
01229500A989	020 Other Slavic literatures
01229600A989	040 889 の如く細区分をし、さらに文学形式区分をする、例えば、989.83 ポーランド小説
01229700A989.5	010 チェク文学
01229800A989.8	010 ポーランド文学

(7) 言語共通区分

① 考え方

9版の考え方と同様に、合成は要目レベルのみに限定する（小数点以下まで展開されている記号は合成しない）。ただし朝鮮語は例外とする。なお、細目表には合成された記号が掲載されていないが、要目表には掲載されている場合があり、注意を要する

② 対象とする分類記号

829.1、84、85、859、86、869、87、88、891、892

(8) 文学共通区分

① 考え方

9版の考え方と同様に、合成は要目レベルのみに限定する（小数点以下まで展開されている記号は合成しない）。なお、細目表には合成された記号が掲載されていないが、要目表には掲載されている場合があり、注意を要する

② 対象とする分類記号（赤字の記号は8版で追加）

94、95、96、969、97、98、991、992

8版言語共通区分

01239200C4-1	010 音声. 音韻. 文字
01239300C4-2	010 語源. 語義
01239400C4-3	010 辞典
01239500C4-4	010 語彙論
01239600C4-5	010 文法. 語法
01239700C4-6	010 作文. 文体
01239800C4-7	010 読本. 解釈. 会話
01239900C4-8	010 方言. 訛語

8版文学形式区分

01240400C5-1	010 詩歌
01240500C5-2	010 戯曲
01240600C5-3	010 小説
01240700C5-4	010 評論. エッセイ. 随筆
01240800C5-5	010 日記. 書簡. 紀行
01240900C5-6	010 ルポルタージュ
01241000C5-7	010 諷刺. ユーモア. アフォリズム
01241100C5-8	010 作品集: 全集, 選集